

早いもので大震災から3カ月が過ぎました。

16時から分野セミナーが予定されていたので、星陵地区にいる教室員が青葉山研究室へ集まってきていた最中でした。そのこともあり、大震災発生当初は電話がまったくつながらず安否確認に苦勞しました。青葉山研究室では各種研究機器・器具・書籍類の落下等、大きな被害があり、その状況は同窓会のHPに掲載されている通りですが、当日中に全員の無事を確認でき、怪我人も出ていなかったことは非常に幸いだったと思います。

その後は、余震が続く中安全を確保しながらおそるおそる復旧作業に取りかかり、ライフラインの復旧や破損機器の修繕はともかく、研究室での日常を始められるようになるまでの整理が一段落したところで4月7日23時32分の余震に見舞われました。学生達は安全確保のため帰省をしている中、教員はほぼ始めから復旧作業のやり直しということとなりましたが、4月25日の学部再開までには、「足の踏み場もない」状態からは脱却することができました。

実質の研究教育活動に関しては、5月中旬頃より破損機器・器具類の修繕を同時並行しつつ徐々に開始している状況で、現在も破損した機器が散在していますが、制限のある環境で、従来以上の活気を取り戻そうと試行錯誤しながらも活動しているところです。

昨年度大学院を修了していった学生は皆薬剤師として就職しました。十分な見送りもできなかったのは残念ですが、中には被災地の中核病院、公務員という立場で着任後すぐに即戦力として活躍している修了生もあり、大変心強く感じております。

私たちの使命は社会に対して貢献できるような研究成果の発信と学生の育成だと考えており、今後も微力ながら努力してまいりたいと思います。この度の震災復興支援事業におけるご支援に感謝の意を表するとともに、引き続き同窓会の皆様のご協力を賜りますようお願い申し上げます。